



SIGNIS JAPAN ニュースレター タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
代表：土屋 至
発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42 聖パウロ女子修道会内
TEL 03-3479-3941 E-mail: info@signis-japan.org
http://signis-japan.org/

主のご復活、おめでとうございます！

東京では3月末に桜が満開となりました。若葉が萌え、花々が咲き、自然も新しい命に生まれ変わります。私たちも主イエスの受難と復活に与り、新しくされました。エマオへの道で復活されたイエスと出会い心が燃えた弟子たちのように、シグニスもご復活のあふれる喜びを、メディアを通して伝えていくことができますように。



第43回日本カトリック映画賞決定！

『ぼけますから、よろしくお願いします。』 信友 直子 監督 / 2018年作品
授賞式&上映会 2019年6月22(土) 12:30上映 なかのZERO 大ホール

今回の授賞作は『ぼけますから、よろしくお願いします。』監督 信友直子が選ばれ6月22日(土)なかのZERO大ホール(東京都中野区)にて上映会が行われます。

この作品の舞台は広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(信友監督)は、呉の両親と離れて40年近く東京で暮らしています。そんな中、母がアルツハイマー型認知症と診断され、少しずつ母の変化が気になる「私」ですが、仕事をすてて、実家に帰る決心もつかず。揺れる私に父が言います。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をしなさい」と頼もしい一言。95歳にして初めて家事。父の奮闘ぶりがほほえましく、温かく、元気をもらえます。

授賞理由について晴佐久昌英神父(シグニスジャパン顧問司祭)は、次のように述べています。

「感情の高ぶった母親が娘に対して『もう撮らないで』というその姿を、娘は冷静に、しかしあふれんばかりの愛情で撮り続けている。そのときカメラは、むき出しの現実の奥に秘められた尊い真実を撮っているのであり、ここではもはや、撮ることが、愛なのだ。だからこそ、今の社会は必要としているのではないか。

観終えた今、観たものにとって、この三人はもはや他人ではない。共に観た人々とさえ、無縁ではなくなる。観るものを、これほどまでに『家族』にしていく映画があったらどうか。カトリック映画賞の目的にもかなう、尊い映画である。」

映画を見終わったら、間違いなく皆様もきっとこの父の頑張りを応援し、ファンになっていると思います。また、「私」がファインダーを通して、父に、母に語りかける広島弁も、優しく、温かく、溢れんばかりの愛が感じられて自分の父、母にもこのように声をかけたいくなる気持ちにさせてくれます。現代社会において多くの方が直面している認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いた作品です。たくさんの皆様とこの映画を分かち合うことが出来たら嬉しく思います。

上映と授賞式の後には、信友直子監督と晴佐久昌英神父との対談を予定しています。日本カトリック映画賞恒例の授賞監督との対談では、映画とゲストの話がひとつになって、また一層の感動を味わっていただけたと思います。

たくさんの皆様のご来場お待ちしております。

(映画チーム 増田)

チケット：1,000円 / 高校生以下、障がい者(含介助者1名) 800円

販売所：聖イグナチオ教会案内所、スペース セントポール(東京カテドラル内)、サンパウロ(四ッ谷駅前)、ドン・ボスコ社(四ッ谷)、高円寺教会天使の森

メール・電話での申込み：SIGNIS JAPAN 事務局 info@signis-japan.org / TEL 090-8700-6860 (担当 大沼)
バリアフリーについて ★本編は日本語字幕付き。授賞式、対談は要約筆記、手話通訳付きです。



『教会とインターネットセミナー』報告

3月9日(土) 四谷の聖パウロ修道会若葉修道院にて、第24回「『教会とインターネット』セミナー」が開催され、スタッフを含め約50人が参加しました。今回はチームの若いメンバーが中心となって準備を進め、「SNSと福音宣教：主が霊を授けて、主の民みんなが預言者になったらいいのに」をテーマとして、講演とワークショップを行いました。

日本イエス・キリスト教団信徒である上坂栄太さんとかすがさんはご夫婦で、キリスト教宣教・伝道を目的とした非営利団体 [LampMate](#) (ランプメイト) として活動しています。牧師監修の下、漫画やアニメから聖書を解説する「[いつかみ聖書解説](#)」という伝道特化型WEBメディアを運営しており、クリスチャンではない人にどうやって記事を見つけてもらうか、そして「キリスト教に『運命』を感じてもらうか」という話をしていただきました。

ニコラオさんは[カトリック北見教会公式 Twitter](#) 担当者の一人で、「自分の世代の人が教会でどう活動するか？」と考えた結果、Twitterを使ってクリカツ(クリスチャン活動の略)を始めました。信徒という立場で何ができるかを考えながら、マイルールを決めてTwitterで発信し、「僕たち兄弟なので、誰かが背中を押して、実際に教会に行く。そのときにたどり着く教会はどこでもいいと思いませんか」と語りました。

石原良明さんは「タリタ・クム！」の前号で紹介されたwebマガジン [AMOR](#) の編集部・SNS担当者です。AMORのコンテンツを紹介し、「つねづね気をつけているのは、単にキリスト教を扱うのではなく、福音の価値観を伝えること。こんな見方もあったか、そんなものの考え方もあるのかということを通して普通の人に思ってもらいたい」と語り、「チームや共同体を作って宣教に立ちあがる人が増えたらすばらしいと思います」と締めくくりました。

後半のワークショップでは上坂栄太さんが司会を務め、紙とフセンを使いながら自分の好きなことや興味のあることを掘り下げたり、相手の「好き」にコメントをしたりしながら、「リアルTwitter」を体験しました。



(インターネットチーム 高原)

〈講師の方からの感想〉

とても楽しく、また大変勉強になりました！ セミナー後に参加者さんから「面白いワークショップでした。教会に持ち帰ってみんなでやってみたいと思います！」との感想をいただきました。その方のおっしゃる通りで、紙とフ



センがあれば誰でも楽しめるシンプルなアイデアです。SIGNISのサイトにてセミナーレポートが出るかと思いますが、ワークショップに参加した方も、参加できなかった

方も、ぜひワークショップを真似て活用していただければ嬉しいです！ (上坂栄太さん)

実は前回23回登壇者丸山さんの講話まとめをネットで見ており、随分励まされながら「伝道特化型webサイト」なるコンセプトでwebサイトを作り込む事ができたのです。私共の創作物は主の御業により作られたと確信しているのですが、その一片にはSIGNISインターネットセミナーがあるのだと思い、主のご計画の深さを噛みしめています。今回のセミナーもまた見知らぬ誰かを支えていると信じて、SIGNIS JAPAN様のお働きがますます祝されていきますようお願いしております。(上坂かすがさん)



アレルヤー！ はじめましての方ははじめまして。北見カトリック教会のtwitter担当、「サンタクローズの方」のニコラオと申します。あらゆる事が目まぐるしく変わる現代では、私たちの祈りと黙想のあり方も変化しているのでしょうか。セミナーを通して多くの兄弟姉妹をインターネットの大海原へと駆り立てられればと思います。兄弟たちは樂園を目指し、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの復活、永遠の命を追いつける……世はまさにインターネット宣教時代！ (ニコラオさん)



webマガジンAMORを代表して、これからweb宣教メディアを始めたい皆様を応援する立場で、思っていることやAMORの実践について発言しました。最近でこそ一日に何十人、何百人もアクセスがありますが、たとえそれがほんの数人だったとしても、その人たちをいかに大切にできるサイトにしていくか、その人たちが教会に来るようになったらとても大きな変化だと思っています。

そもそも、今回は登壇者でありながら、「いつかみ聖書解説」さんと北見教会のニコラオさんをお呼びしよう言い始めた発案者でもありました。インターネットもSNSも当たり前の時代となり、福音宣教webメディアのあり方も変わってきています。これからの宣教を考えつつ、福音的なインターネット文化を育てるSIGNISらしいイベントになったなら嬉しい限りです。時代の移り変わりに合わせて、「『教会とインターネット』セミナー」はこれからも変わり続ける必要があるでしょう。(石原良明さん)



★セミナー前半の講演部分はYoutubeで視聴できます。ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=EcAsAZWfW1E>

韓国シグニス訪問記

2019年1月4日～7日の日程で、シグニスジャパンの土屋会長と町田事務局長が韓国シグニスを訪問した。経緯は、2021年8月にシグニス世界大会が韓国・ソウル市で開催されることになり、隣国の私たちシグニスジャパンとしても是非協力したい、まずは相互訪問を通してお互いを知る環境づくりから、ということになり、この旅が実現した。

今回お会いしたのは、モニカ・イム会長、エドワード・フランシス・リュウ副会長、フランシス・キム氏(SIGNIS ASIA役員)、ピーター・ジョン事務局長、ポール・ナムゴン氏、および通訳のアンナ・キム氏であった。皆さん韓国を代表する放送局の方々であった。



まずは日本側よりプレゼンをし、その後韓国側よりのプレゼンがあった。韓国シグニスは、総勢763人、主として放送関係者からなる。各放送局内に支

部があり、月1回会社内でミサがあり、社内勉強会の他、合同黙想会、合同聖地巡礼もある。各地に地方シグニスもあるが、シグニス・ソウルが一番大きく、韓国を代表している。

「韓国カトリック映画祭」は韓国カトリック司教協議会の広報委員会が主催しており、韓国シグニスはサポートのみ。期間は4日間で、映画の専門家が審査する。エントリー資格は、社会問題を扱った60分以内の映画。昨年のテーマは、“Respect & Equality”（尊敬と平等）であった。

インターネットについては、現在の韓国シグニスの会員は放送局関係者中心で、インターネット関係者がいないが、今後幅広く受入を検討中とのこと。

<韓国のキリスト教>

布教・迫害・殉教・信教の自由と現在の日韓を比べるとスタート方法(宣教師主導 vs. 信徒による勉強会)と現在(45万人 vs. 580万人)に大きな違いが存在する。1万人を超える殉教者は共通。韓国では特に独裁軍事政権時に時の金寿煥枢機卿が学生を守ったことで民衆の信任と社会的影響力を得たことが教勢拡大につながったとのこと。



写真：戦争記念館でボランティアガイドの説明を聴く土屋会長

<KBS 訪問ほか>

今回の訪問では、初日に KBS（韓国放送公社 Korean Broadcasting System）放送局を見学した。KBS は朝鮮戦争が終わってすぐ日本語放送を開始した。当時は日韓の間に外交ルートはなく、李承晩ラインでの日本船拿捕の通知は KBS の日本語放送で伝えた。現在日本語放送のリスナーは10代から70代の男性が多い。KBS の国際放送は11ヶ国語で短波放送中心、インターネットアプリで聴くことができる。

次の日からは、歴史的建造物、殉教地他を訪問した。ソウル市内の明洞大聖堂は、長崎の大浦天主堂と同じくパリ外国宣教会により建てられた。隣にあるソウル大司教区の歴史資料館では、韓国のキリスト教の歴史の説明パネルや資料が展示され、何と長崎からの活版印刷機も展示されていた。

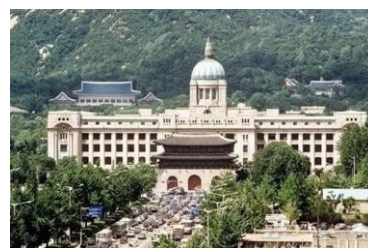
<今回の訪問で思ったこと>

自分なりにかなり勉強したつもりだったが、ソウルでの見聞を経ていかに我々が両国間の歴史について知らなかったか、また韓国の人々がどんな思いを持っているのかについて思いを馳せなかったかを痛感した。38度線近くの非武装地帯での民族の分断を目の当たりにし、



非武装地帯に立つ望郷の碑

たりにし、刑務所歴史館、戦争記念館見学では教科書では数行だった歴史が迫ってくる思いがした。不幸な歴史ばかりではなく



景福宮の中に建てられた
旧朝鮮総督府・1995年に解体

朝鮮通信使のような平和な交流もあったのには救われた。我々も謙虚になると共に韓国の人々にも日韓の歴史の中のプラスサイドも是非再評価して欲しいとも強く感じた。

(事務局 町田)



ソウル最後の夜、
キム氏、ナムゴン氏

SIGNIS JAPAN ワンデーミーティング

去る3月21日(祝) 四ツ谷のイエズス会日本管区長館岐部ホールの集会室に11名が集まり、ワンデーミーティングが行われた。午前中はシグニスジャパンの歴史(過去と現在)を振り返り、午後からは将来の目指す姿を話した。

シグニスジャパンは当初 UNDA(日本カトリック放送協議会)と OCIC(日本カトリック映画・視聴覚メディア協議会)として、カトリック中央協議会広報委員会の中に設立された。1977年より日本カトリック映画賞を授与したが、上映会は1997年から。インターネットの拡大にあわせ、2003年より、インターネットセミナーを開催。この頃より千葉会長(当時)や晴佐久神父の呼びかけでシグニスに一般信徒が参加しはじめた。2007年に中央協から離れたが、アジア会議の東京開催で多くの刺激を受け活動が発展し、SNN、カトラジ、AMOR等の関連団体が生まれた。

2003年頃～現時点までのシグニスジャパン会員やオブザーバー(計45名)の入会のきっかけを調べると、晴佐久神父お声掛け(11)、OCIC(6)、インターネットセミナー(6)、中央協(5)、千葉監督お声掛け(4)、鶴飼・土屋・杉野・町田声掛け(8)、その他(5)で、メンバーからの声掛けが一番多く、次がインターネットセミナーだった。

午後はまず、シグニスのミッション・ステートメントを復唱したあと、各自が自分の思い描くシグニスの将来についてポスト・イットに書き込んで(写真右)、それを見ながら、その思いを語ってもらった。その後、ポスト・イットを白板に貼ってからグルーピングをして、何をを目指すのか、お互いが何を思っているのかを知り、その思いを共有した。



<書き込みより抜粋>

- ・シグニスの魅力： 国際性とカトリシズムの普遍性
- ・会議・組織・会員： 定例会以外の集まり方や第2グループの結成、SLACKの活用、プロテスタント会員の可能性
- ・各方面との連携・協働拡大： カトリック他部門との連携(特にカリタスの「排除ゼロ」キャンペーンとの連携)、大学生や神学生とつながる、カトリックメディア関係者との交流ほか。
- ・IT 応援・支援： 福音宣教のための Social Network 活用、教会 HP や SNS 講座
- ・地域との関係、新しいコミュニティ： 福音家族の発展、従来とは別次元の教会コミュニティ促進、地方に行く、出掛けていく。遠隔地との協業
- ・映画関連： 映画の中の福音、映画賞上映会の時に要約筆記ボランティアの紹介、過去の映画賞作品の上映会、自主映画会の相乗り、福島で上映会
- ・その他：シグニスは人間の尊厳・共通善を目指す活動を

今回は参加者各自の思いをみんなで共有することが主眼であり、意見集約はしなかったが、今後の活動を考える上で大変参考になり、力を合わせやすくなったと思う。また、このミーティングについてシグニスの活動に関心のある方々にもお知らせしたところ、静岡と神奈川からも参加して下さい、実り豊かな話し合いになりました。感謝！
(事務局 町田)

このニュースレターを読んでシグニスの活動に興味をお持ちになった方、是非下記の<賛助会員募集>をご覧ください！



賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN /

info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至